

感染性心内膜炎予防のために

患者氏名

診断名

① 感染性心内膜炎とは

血液中に入った細菌が原因となり、心臓・弁に炎症を起こす病気です。心臓病の患者さんは歯科治療や消化管手術など、②のような処置を行なったときに、感染性心内膜炎を起こすことがあります。主な症状は数日以上続く原因不明の発熱です。感染性心内膜炎になると、入院の上、長期間にわたる抗生物質の投与や、時には心臓手術が必要になります。したがって、③の方法で予防を心掛けることが重要です。

② 感染性心内膜炎の予防が必要な処置

- 出血を伴うすべての歯科治療（抜歯、虫歯の治療、歯石除去など）
- 消化器や泌尿器の手術
- 扁桃腺の手術
- 化膿部の切開手術
- ピアスのための処置
- その他の手術：担当医にご相談下さい。

③ 感染性心内膜炎の予防法（2012年の日本小児循環器学会ガイドラインに準ずる）

- 虫歯や歯肉炎から口の中の菌が血液の中に入ることが多いので、ふだんから虫歯にならないよう予防して下さい。
- 歯科治療など上記処置の際には、以下の抗菌薬予防内服（静注）を行って下さい。

処置 1 時間前、AMPC 50 mg/kg（最大 2 g）内服 1 回のみ

（製剤名：パセトシン（粉末）またはサワシリン（カプセル））

<ペニシリンアレルギーがある場合の方法>

処置 1 時間前、CAM（クラリス散・錠）15 mg/kg（最大 500 mg）内服 1 回のみ

<経口摂取ができない場合の方法>

処置 30 分前、ABPC（ビクシリン注）50 mg/kg（最大 2 g）静注 1 回のみ

- * 歯科治療は、麻酔を含め全て通常の処置が可能です。
- * 処置後の抗菌薬は感染性心内膜炎の予防としては必要ありません。歯科その他の処置を行った医師の指示に従って服用して下さい。
- * もし歯科処置や手術後に数日以上続く原因のはっきりしない発熱、元気がない、食欲がないなどの症状がある場合には、担当医または下記までご連絡下さい。

慶應義塾大学病院小児科心臓班

電話：03-██████（内）██████（心機能検査室）